

三原市民と市長の「みらいトーク」(第18回)実施結果

令和4年11月28日

目的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和4年11月28日(月曜日)18時00分～19時30分

場所 三原市役所本庁舎4階 第一応接室

参加者 (一社)三原観光協会、本郷町観光協会、三原市大和町観光協会より各2名(計6名)、三原市長

内容 市長が気になるテーマについて質問し、参加者と意見交換

1 それぞれの観光協会の目玉の観光について

【参加者の意見】

- ・観光の目玉は白竜湖花火。合併後10年は実施してなかったが、合併10周年を機に桜の時期の花火として復活した。復活には若い世代の要望が大きく、県内で一番早い時期の花火として非常に人気がある。今年はコロナの影響で中止となり、これで3年連続の中止となった。来年は実施したいと考えている。(三原市大和町観光協会、以下「大和」)
- ・本郷も沼田本郷夏まつりの花火大会が観光の目玉である。今年はコロナの影響で中止となり、これで3年連続の中止となった。国道が近く、警備に非常に経費がかかるのが難点である。(本郷町観光協会、以下「本郷」)
- ・観光の目玉はやっさ花火大会。和田沖、松浜沖と場所を変えて実施しており、今年は市内中心部である沼田川中土手で実施した。今後も花火だけは続けていきたいと考えている。((一社)三原観光協会、以下「三原」)

【市長の意見、回答】

- ・春は大和、夏は本郷と三原ということで、年に3回も花火を楽しむことができる。とても幸せな地域と感じている。

2 イベント日程の重複回避について

【参加者の意見】

- ・イベント日程の重複を回避するため、各地のイベント日程一覧を作るよう既に市と協議している。日程が重なって集客数が分散するのはもったいない。(三原)
- ・尾道の花火大会と重複することがある。本郷の夏まつりは起源が江戸時代に遡るため、日程を変えるのは難しい。(本郷)
- ・例年、だいわ元気まつりと広島空港の祭りの日程が重なる。日程をずらすよりも、祭りをコラボさせることで共同でゲストを呼んだり、互いの場所をスタンプラリーで巡ったりするなど、お互いのメリットを見つけられたらいい。(大和)

【市長意見、回答】

- ・イベントの日程調整をする中で、重複を避けたりコラボを検討したりすることができることはよいこと。接点のないイベント同士をコラボする場合、行政が間に入って調整の場を設けるとよい。

3 人手不足の課題について

【参加者の意見】

- ・観光協会の業務は窓口対応や四大祭りへの対応など多岐にわたり、非常に忙しい。役員も現役世代が多く、本業との兼ね合いで観光協会へ十分に携わることができない。土日も営業しているので人件費の負担も大きい。(三原)

4 イベント時の物販の連携について

【参加者の意見】

- ・浮城まつりでは本郷から「隆景くん」や安芸本郷太鼓の出演という形で協力していただいた。観光協会同士でよい連携がとれていると感じている。(三原)
- ・浮城まつりでは「御城印」を販売させていただいて感謝している。(本郷)
- ・やっさ祭りや沼田本郷夏まつりでは大和のブースを設置させてもらっている。白竜湖花火では、三原から観光バスをチャーターして他市の観光客を呼びこむ取り組みしてもらったこともある。よい関係性で連携させてもらっている。(大和)

5 観光協会の統合が実現していない経緯について

【参加者の意見】

- ・三原は法人格だが、本郷と大和は任意団体である。そのため、会計処理の仕組みが異なる。それが大きな障害となり、統合は保留状態となっている。また、各観光協会では会費の金額に開きがあり、統合するのは困難であった。感情的なしがらみはなく、会計と会費の問題がクリアできれば統合できると考えている。(本郷)
- ・法人格同士の統合だと事務手続きが煩雑になるが、本郷・大和は任意団体のため事務手続き的なハードルは低いと考えている。統合に向け、行政からもよい知恵があれば拝借したい。(三原)

【市長の意見、回答】

統合により、事務的な経費や労力を抑えることができれば、本来の目的である観光振興のために集中して取り組めるのでメリットは大きいと感じる。

6 アフターコロナ時代に取り組みたいことについて

【参加者の意見】

- ・今年のやっさ祭り開催決定時は周辺から「三原はすごい」との評価を受けたが、現在の状況を見ると、三原は飲食の提供に臆病になっているように感じる。お祭りに飲食はつきものであり、人を集めるためにはイベントでの飲食復活は必須と考えている。感染対策を講じた上で、思い切ってやる必要があるではないか。(三原)
- ・今年の夏祭りは県のガイドラインに沿った運営が困難と判断して断念した。今後は他のイベントと足並みを揃え、規制に対する解釈を共有しながらイベント実施を検討していきたい。室内でのイベントはリスクがあるので、当面は室外での賑わい作りに取り組んでいきたい。3月には空港まで往路はバス、復路はウォーキングというツアーを予定している。(本郷)
- ・コロナ終息がいつになるのか見通しはつかないが、マスク・手洗・換気などの対策を徹底すればイベントの復活は可能と考えている。3月末には白竜湖ウォーキングを予定している。(大和)

【市長の意見、回答】

- ・県のガイドラインに基づいた対策の判断など難しい面があるが、観光協会同士で連携し、情報共有できる場があればよいと思う。行政として開催の可否を判断するのは難しいが、協議

の場を設けることはできる。

7 情報発信の課題について

【参加者の意見】

- ・古墳，新高山城などの情報を発信していきたい。（本郷）
- ・情報発信の中心はHPやパンフレットであり，現在の事務体制ではこれ以上の情報発信は難しいと考えている。（大和）
- ・DMCと同じようなHPやパンフレットを作成しているので無駄が多いと感じている。
HPで三原・本郷・久井・大和それぞれの地域の観光情報がまとめて閲覧できるようにするなど，三原の観光情報を一つにまとめた方がよいと考えている。（三原）

8 最後になんでもよいので一言

【参加者の意見】

- ・本郷は沼田文化発祥の地で見どころが多いが，収益性が乏しいのが難点である。
本郷を核として，市内の他地域も周遊してもらい取り組みを進めたい。
また，地域の祭りや郷土芸能などをまとめて体験できる場も作りたい。
3つの観光協会が定期的な会合を持ち，意見交換することも大切と考えている。（本郷）
- ・3つの観光協会で連合体を作り，一つのイベントを実施したい。
各観光協会の役員の交流も深めたい。（大和）
- ・みんなが喜ぶことをしようというのが基本的な考えであり，コンセプトは「まちづくり」である。そのためには3つの観光協会の交流・連携が必要と考えている。
再来年の神明市開催に向けても取り組んでいきたい。（三原）

9 最後に市長から

それぞれの観光協会のイベントについて，日程が重複しないように分散させる方法の他，コラボすることで一緒に盛り上げるやり方もあるという意見をいただいた。

日頃から3観光協会でのよい連携がとれている中，統合については会計処理や会費の違いという課題があることも認識させていただいた。

コロナ禍でのイベントの開催にあたり，各観光協会での県のガイドラインの解釈や対応に違いがあったようだが，情報を共有することでお互いの背中を押しあうこともできたのではないかと感じている。

日頃からよい連携をしていただいていると思うが，行政も間に入ることでより強固な関係を築いていければよいと考えている。